

(4)食と農の理解促進

県民の食と農に関する正しい理解を深めるため、健全な食生活や農産物に関する情報発信を行いました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により健康への不安が増し、不自由な生活を余儀なくされる中においても心豊かな生活を送れるよう、「コロナに負けるな!! 食で体・心・地域元気アップ!」をテーマに、ポスターを作成・配布し、市町や食育団体と連携し、県民への啓発を行いました。

また、「とちぎ食育推進月間」である10月には、市町の食育担当者や食育・地産地消関係団体を対象に、「とちぎ食育推進研修会・とちぎの学校給食地産地消研修会」を開催し、コロナ禍において、従来の対面による食育講座の開催が困難であることに対応すべく、新たな手法による講座の開催を目指した「Webを活用した会議開催、食育活動」の方法について講義及び実習を行いました。



啓発ポスター



Zoomを使用した食育講座開催のデモンストレーション



グループワークの様子

このほか、「とちぎ食育応援団」が県内各地の保育園や幼稚園に出向いて食育活動をサポートする「とちぎっ子食育出前講座」の開催や「とちぎのモノを知って使って味わう家庭実践講座」の開催を通し県民が食育を楽しく学ぶ機会を作りました。

今後も、県民一人ひとりがよりよい食生活を身につけることができるよう、関係機関と連携した食育推進運動を展開し、食の重要性を学ぶ機会の提供や幅広い情報発信を行うことで、食と農の理解促進に努めていきます。



とちぎのモノを知って使って味わう家庭実践講座の様子



事例 いちごにおける農福連携の取組開始(上都賀地域)

上都賀地域では、農業分野と福祉分野が連携した「農福連携」が広がっています。

鹿沼市の観光いちご園「ベリーズファン」では同市内にある2つの福祉施設とマッチングし農福連携を開始しました。栽培するいちごの下葉かきやランナー取り等の作業を委託しています。作業委託契約前には、施設利用者の作業トライアルも行われ、農業者と福祉施設が互いに委託作業内容について確認しました。

今後も実践農場見学会や情報提供を通じて農業者と福祉施設間のつながりを深め、更に「農福連携」が深まっていくことが期待されます。



福祉施設利用者に作業手順を説明する園主



いちごの下葉かきを行う施設利用者